

平成29年度

市政モニターアンケート調査結果  
【 長崎市の公共交通について 】



長 崎 市  
都市計画課

## 1. 調査の目的

長崎市内で運行されているバスや電車などの公共交通機関の利便性への認識、長崎市が運行委託しているコミュニティバスや乗り合いタクシーの認知度を確認するとともに、コミュニティバスや乗り合いタクシーの運行のために税金で赤字補填していることへの見解を得ることを目的としています。

## 2. 調査の概要

調査期間：平成 29 年 7 月 31 日 ～ 平成 29 年 8 月 14 日

送付数：214 人（郵送モニター 173 人 インターネットモニター 41 人）

回答率：65.0%（139 人）

（郵送モニター 127 人 インターネットモニター 12 人）

## 3. 調査結果

公共交通の利便性は、長崎市全体の評価として 64.0%のかたが良い状況にあると認識されていますが、居住地区で利便性に差があることが分かりました。

長崎市の公共交通空白地域の存在は、約半数のかたが認識し、その一部でコミュニティバスや乗り合いタクシーが運行されていることを、79.9%と多くのかたが認知されていましたが、運行のために税金で赤字補填していることを知っているかたは 20.1%で、あまり知られていない状況でした。

コミュニティバスや乗り合いタクシーを税金で赤字補填して運行を維持することについては、「必要だと思う」「どちらかといえば必要だと思う」が合計で 87.8%と、交通弱者や不便地の解消などの目的のために税金で運行することは、大多数のかたが肯定的であることが分かりました。

今後、コミュニティバス等の運行にあたっては、より多くのかたに利用していただくようさらなる周知に取り組み、また赤字を少しでも減らすよう努めていきます。

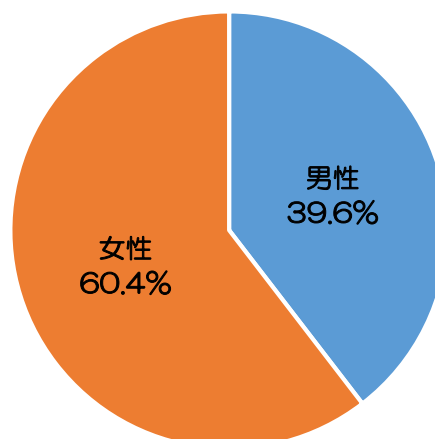
## 4. 調査結果の見方

調査結果の数字は、百分率で表記しているものがあり、百分率の値は、小数点以下第 2 位を四捨五入して、小数点第 1 位まで表記しています。そのため、内訳を合計しても 100 パーセントに合致しない場合があります。

また、複数回答可とした設問においては、合計が 100 パーセントを上回る場合があります。

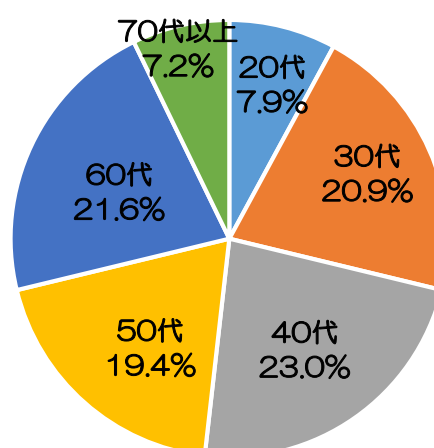
問1 あなたの性別をお答えください。

選択肢	回答者数	割合
男性	55人	39.6%
女性	84人	60.4%
合計	139人	100.0%



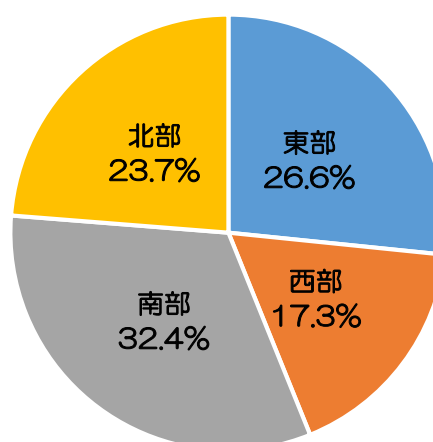
問2 あなたの年齢を選択してください。

選択肢	回答者数	割合
20代	11人	7.9%
30代	29人	20.9%
40代	32人	23.0%
50代	27人	19.4%
60代	30人	21.6%
70代以上	10人	7.2%
合計	139人	100.0%



問3 お住まいの町名を教えてください。

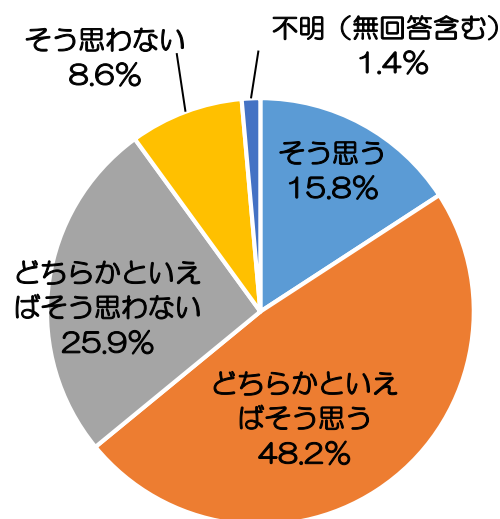
選択肢	回答者数	割合
東部	37人	26.6%
西部	24人	17.3%
南部	45人	32.4%
北部	33人	23.7%
合計	139人	100.0%



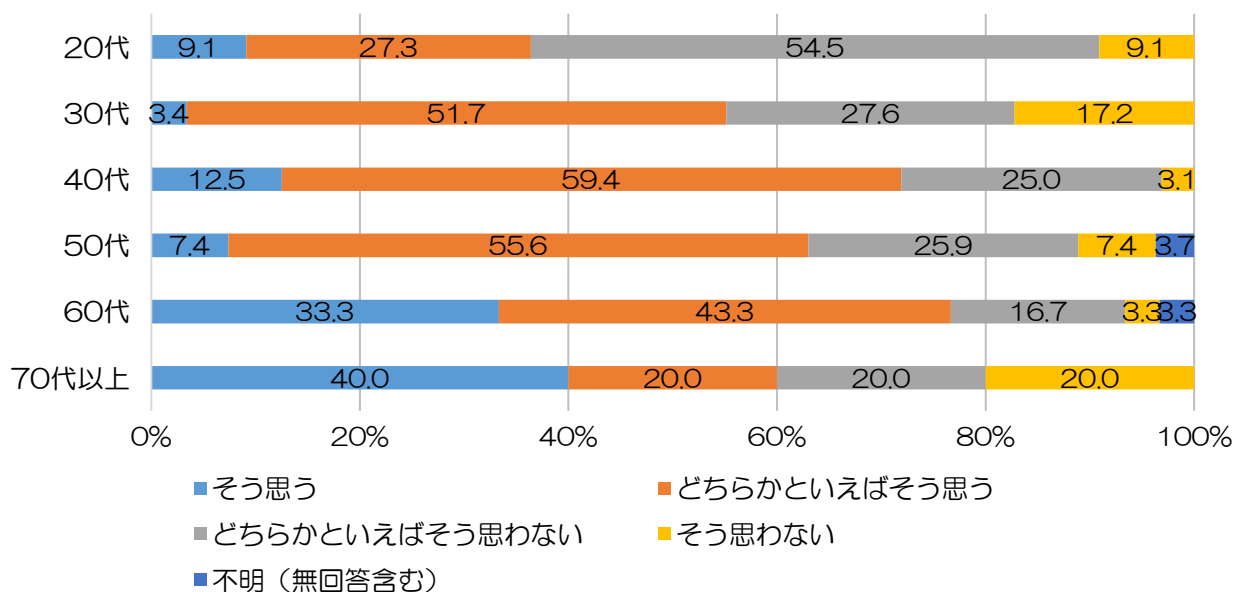
※ご記入いただいた町名をもとに、東西南北に分けて集計しています。

問9 長崎市内の公共交通の利便性は高いと思いますか。

選択肢	回答者数	割合
そう思う	22人	15.8%
どちらかといえば そう思う	67人	48.2%
どちらかといえば そう思わない	36人	25.9%
そう思わない	12人	8.6%
不明（無回答含む）	2人	1.4%
合計	139人	100.0%



<年代別割合>

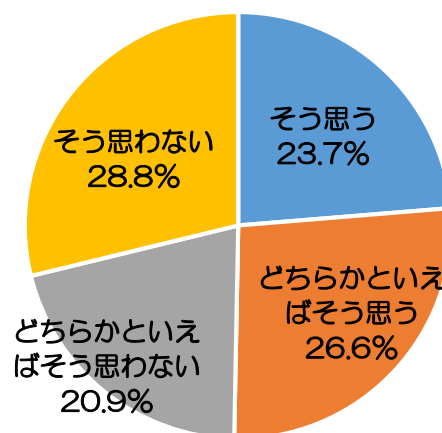


長崎市内の公共交通の利便性は「高い」と思うかについて、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えたかたの合計割合は64.0%で、過半数以上のかたが良い状況にあるとの認識をお持ちです。年代別に見ると20代では利便性について良いイメージを持っているかたの割合は36.4%と他の年代と異なり低い値となっています。

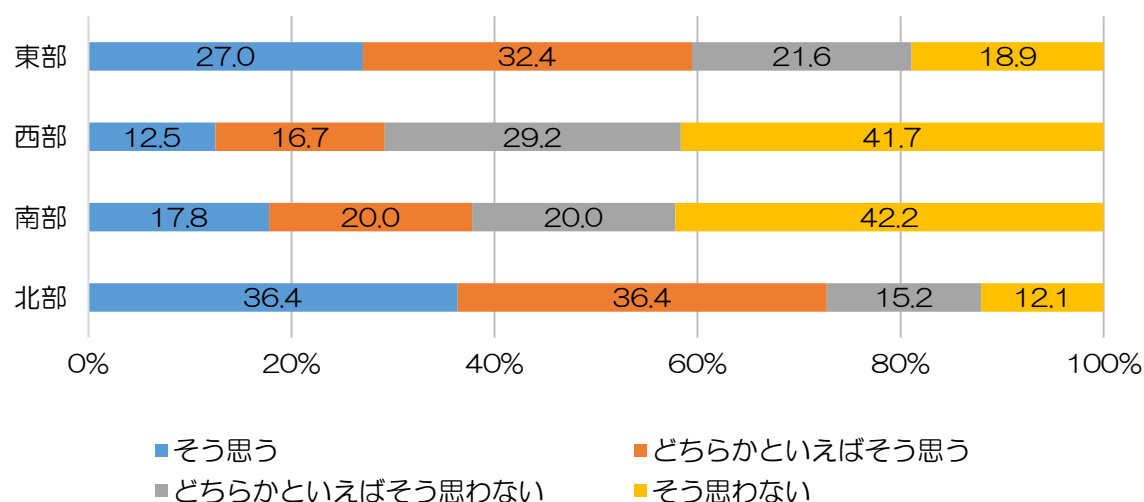
一方、34.5%の人が良いイメージを持っていない現状は、公共交通事業者とともに、改善していかなければならないと考えています。

問 10 お住まいの地域の公共交通の利便性は高いと思いますか。

選択肢	回答者数	割合
そう思う	33 人	23.7%
どちらかといえば そう思う	37 人	26.6%
どちらかといえば そう思わない	29 人	20.9%
そう思わない	40 人	28.8%
合計	139 人	100.0%



<地域別割合>



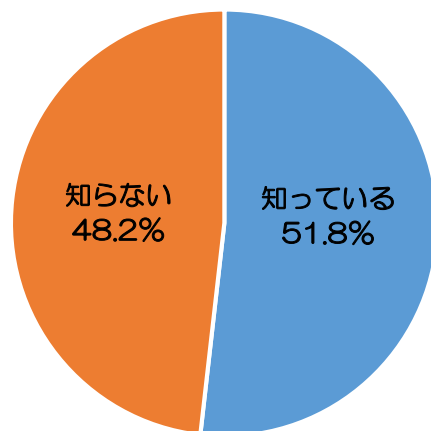
お住まいの地域の利便性は「高い」と思うかについて、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えたかたの合計割合は 50.3%で、半数のかたは良好なイメージを持っていましたが、地域別の利便性は、東部・北部地区では平均より高く、西部地区・南部地区では平均より低くなっています。

これは、路線バス以外の交通モード（JRや路面電車など）が利用できるかどうかも要因の一つとなっていると考えられます。

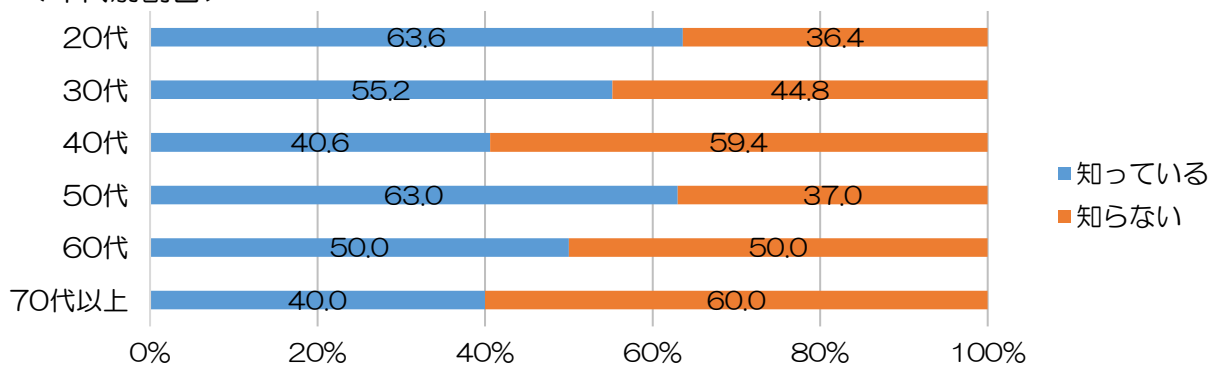
地域ごとの路線バス運行便数や運行時間帯など、利便性を高める取り組みを、公共交通事業者とともに取り組んでいかなければならないと考えています。

問 11 長崎市内には、路線バスのバス停まで 300m以上ある地域（バス空白地域）があることを知っていますか。

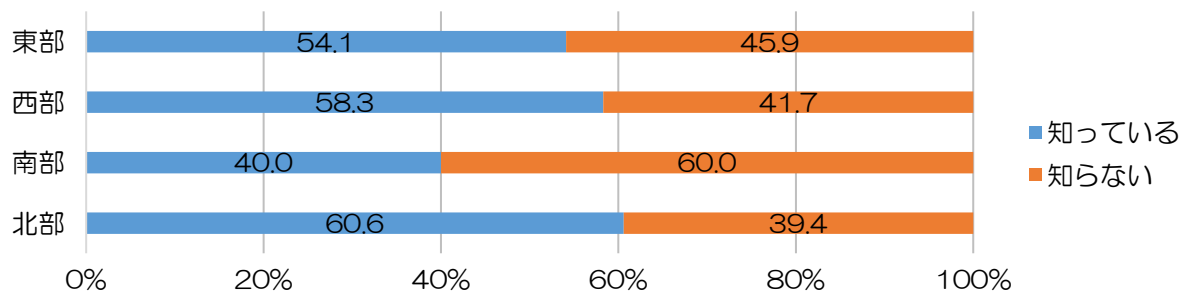
選択肢	回答者数	割合
知っている	72 人	51.8%
知らない	67 人	48.2%
合計	139 人	100.0%



<年代別割合>



<地域別割合>

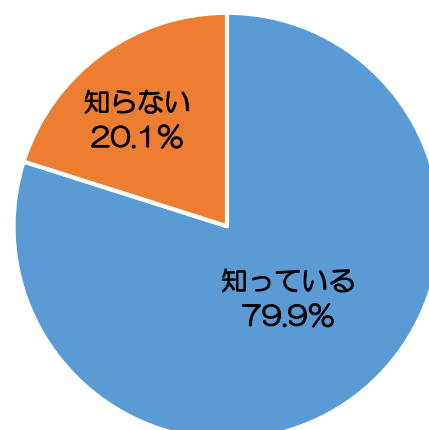


長崎市内にバス空白地域があることを「知っている」と答えたかたの割合は、51.8%で、年代別や地域別でも大きな差は生じていません。

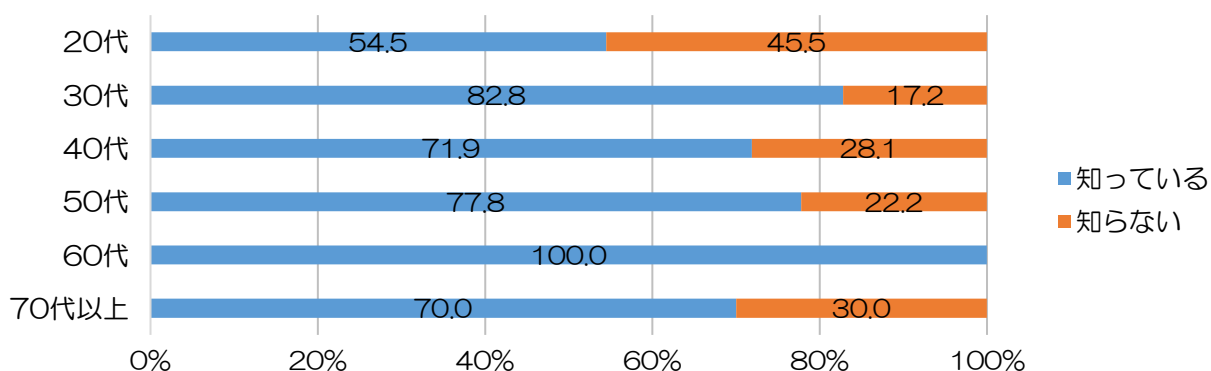
長崎市が取り組むコミュニティバスや乗り合いタクシーへの理解を深めていただくためにも、まずは長崎市には公共交通空白地域があるという現実を知っていただく必要性を感じています。

問 12 長崎市では、バス空白地域の一部でコミュニティバスや乗り合いタクシーが運行されていることを知っていますか。

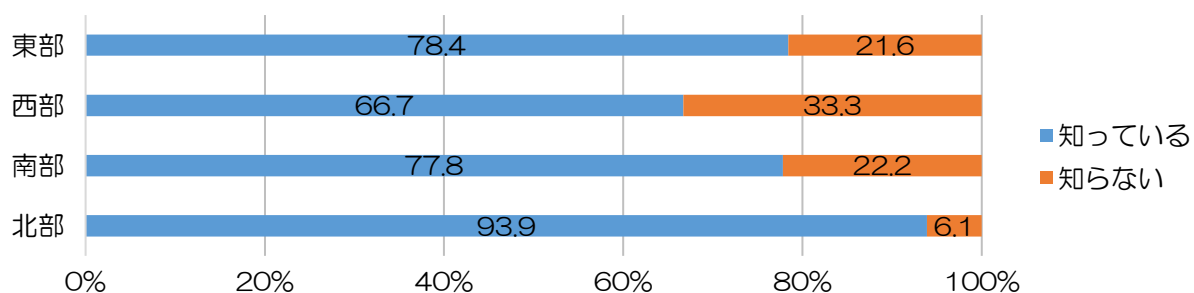
選択肢	回答者数	割合
知っている	111 人	79.9%
知らない	28 人	20.1%
合計	139 人	100.0%



<年代別割合>



<地域別割合>

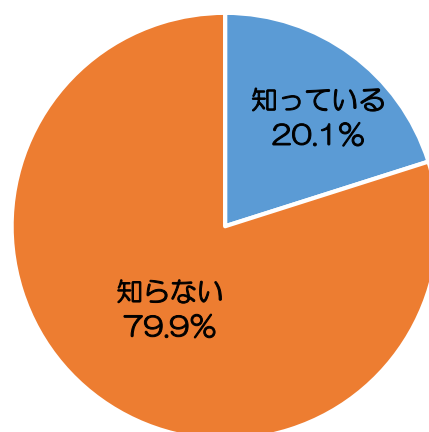


長崎市内のバス空白地域の一部でコミュニティバスや乗り合いタクシーを運行していることを「知っている」と答えたかたの割合は、79.9%で、市民の大部分のかたに認識されています。

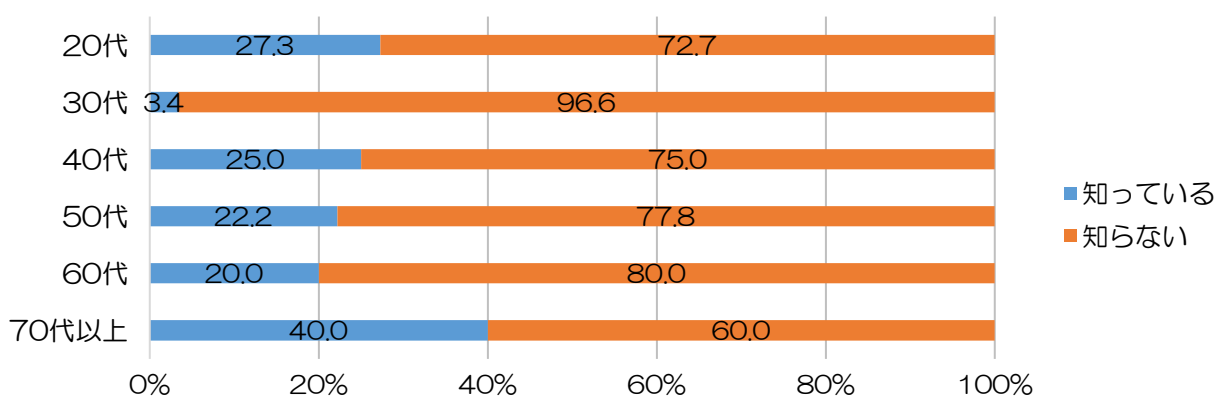
コミュニティバスや乗り合いタクシーは限られた地区で運行しているため、主な利用者はその地区の住民となりますが、今後もより多くのかたに利用していただくよう、運行ルートや時間帯などの周知に努めます。

問 13 長崎市が委託して運行しているコミュニティバスや乗り合いタクシーは、高齢者や子どもなどの交通弱者には、公共交通が不可欠であるとの考えから、運行を維持するために「税金で赤字補填」していることを知っていましたか。

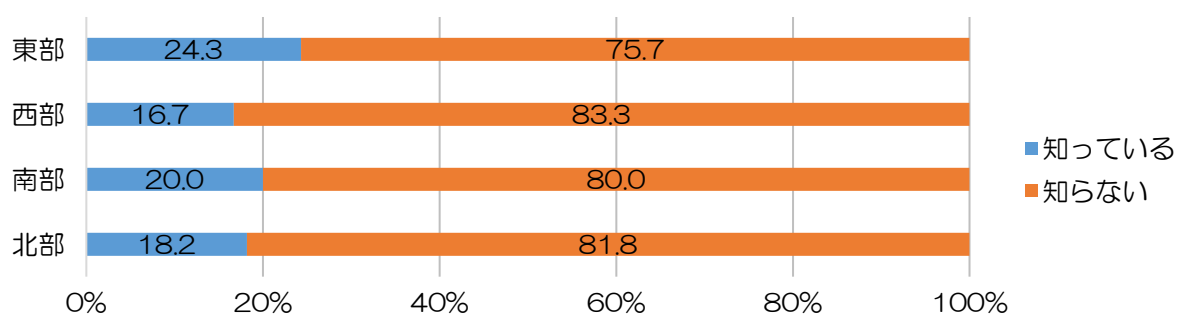
選択肢	回答者数	割合
知っている	28人	20.1%
知らない	111人	79.9%
合計	139人	100.0%



<年代別割合>



<地域別割合>



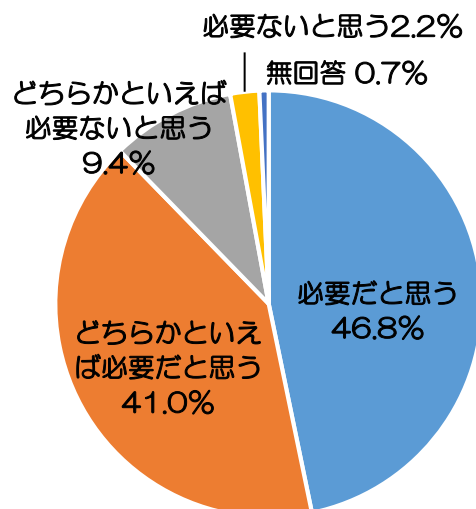
長崎市内のコミュニティバスや乗り合いタクシーは赤字運行となっており、赤字部分を税金で補填していることを「知っている」と答えたかたの割合は、20.1%で、大部分のかたが知らなかったという結果になりました。

コミュニティバスや乗り合いタクシーがどのように行われているのか、その経費はどうしているのかなど、市民にお知らせする取り組みが必要だと考えています。

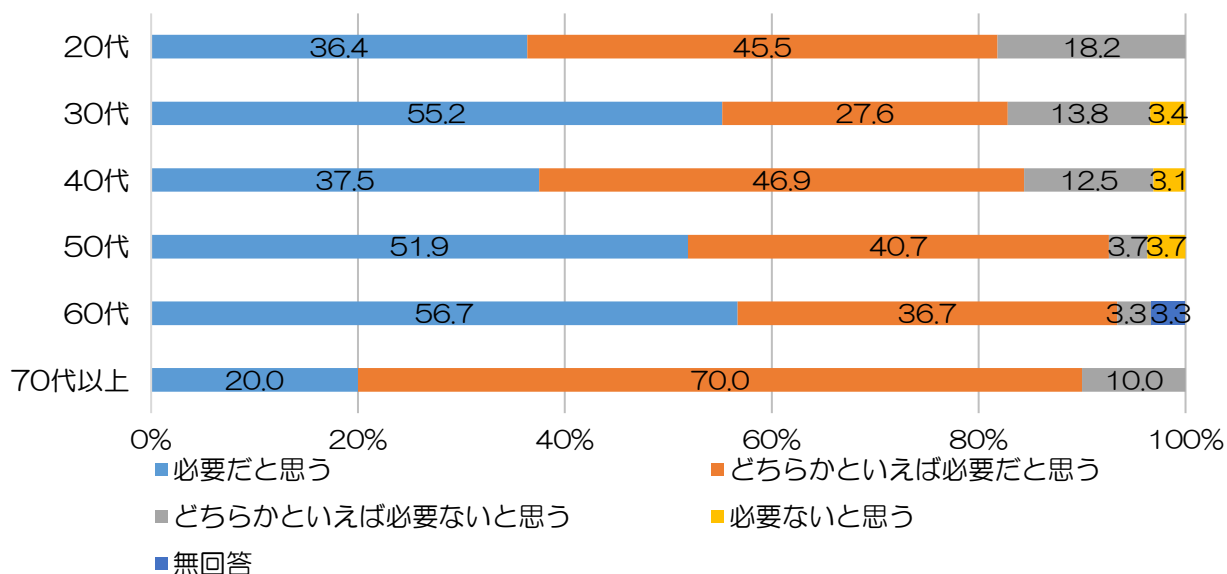


問 14 問 13のような考え方で、税金により赤字補填して運行することについて、必要だと思いますか。

選択肢	回答者数	割合
必要だと思う	65人	46.8%
どちらかといえば必要だと思う	57人	41.0%
どちらかといえば必要ないと思う	13人	9.4%
必要ないと思う	3人	2.2%
無回答	1人	0.7%
合計	139人	100.0%



<年代別割合>



コミュニティバス、乗り合いタクシーを税金で赤字補填して運行することについて、「必要だと思う」「どちらかといえば必要だと思う」と答えたかたの合計割合は、87.8%で、大多数のかたが必要との認識であり、その主な理由に、交通弱者対策や不便地解消（問 15 参照）が挙げられています。

一方で、必要性は理解できるものの、運行方法を見直し赤字にならないようにするべきとの意見や、利用者が少ないことへのご意見も目立ちます。利用者を増やし、少しでも赤字幅を減らす取り組みが必要だと考えています。

問 15 「問 14」について、なぜそのように思いますか。自由にお書きください。

「必要だと思う」「どちらかといえば必要だと思う」と回答したかたの主な意見  
(全 99 件)

- お年寄りになると移動するのも限られてくるし、税金によって赤字補填して運行できるのであれば絶対に必要です。
- マイカーのない高齢者や子どものためには必要だと思う。
- 交通弱者を公共交通でフォローすることは必要と考える。ただし、定期的にご利用状況をチェックし運行を見直す、公共交通以外での交通弱者への施策検討・実施（試行）は必要だと思います（赤字補填を最小限にする努力は常に必要）。
- 年配者、体の不自由なかたの移動手段確保は、赤字でも実施する必要があると思う。
- 長崎の地形上、バスが通らない所があるのは当然ですし、そのような場所にお住まいの方々にとってはとても大事なことだと思うので、税金を使うことは大いに結構。
- 長崎の地形的に坂道や狭道が多く、高齢になり運転をしなくなるかたも多く、地域住民にとってはとても必要とされているかと思う。
- 長崎の地形は他県に比べ悪い。それは、お年寄りなどには厳しい。長崎で生活する上で、自分が将来も長崎で住むなら理解しないとイケない。
- 高齢者の車の運転での事故も増えているので、公共交通機関は赤字補填しても運行すべきと思う。
- 高齢ドライバーの問題があるので、バスは大事だと思う。実際、バス停が遠い地域の方は仕方なく高齢者でも運転している。そういった地域は近くにスーパーや病院も少ないし、困ることが多い。税金はそういったことにどんどん使ってほしい。
- 少しでも安い金額で移動できれば、買い物や病院など出掛ける機会が増えて、老人や1人暮らしのかたとのふれ合い（顔を見る）回数が増えて良いと思う。
- 同じように税金を納めているのであれば、サービスも同じであるべき。バスが通っていない地域は、代替の交通手段を行政が整えなければならないと思うからです。
- 都市機能として考えれば大事。車を持たない人もいる。
- 行政サービスは公平でないといけなと思う。
- 住んでいる人は、ある程度覚悟を決めてそこに住んでいると思う。そこをいちいち援助する必要はないが、今まであった路線バス等が廃止になったりしたら、たとえ赤字でも税金を使って何らかの手段を考えることは必要だと思う。

など

「必要ないと思う」「どちらかといえば必要ないと思う」と回答したかたの主な意見  
(全 14 件)

- 交通弱者に公共交通は必要だと思うが、赤字にならない仕組みを考えるべき。
- 赤字を出してまでもはと思う。大きいバスに数人しか乗っていないバスが多い。小型のバスか、乗り合いのタクシーくらいで良いと思う。
- コミュニティバスの利用者数など集計すれば、それが必ずしも必要かどうか分かる。見かける人が乗っていないことが多い。
- 利用者が少ない。
- そこで税金を使うのはちょっと違うのかなと思います。ごくわずかの人々のために、みんなの税金を使うことにあまり良いイメージを持ってません。
- 赤字補填して運行することは無駄であるし、環境にもよくないと思う。まずはプラスマイナス0になるために路線の必要性の調査、路線アピール、運行機材の見直しをし、それでも赤字になるようであれば必要な人が必要な時に使えるタクシー割引券、シェアカーなど別の手段を考えていくべきだと思う。
- 公共交通機関の空白地域に民間企業が運行することは良いことだと思う。それも委託事業であれば仕方ないとも思える。しかし、赤字補填のために税金を投入するのであれば、初めからちゃんとした公共交通機関を作る方が良い。「弱者救済」なのであれば、なおさらだと思う。委託すること自体は問題ないと思うが、予算や入札(?)などしっかり制度を作った上で赤字にならない方法等を早急に取り組むべき。
- なぜ赤字になるのか調査、または黒字になるよう考える必要があるが、交通の利便だけではなく、買い物に行きたくても行けないのならば、食料品を乗せたトラックなどをそれぞれの地区に行くことにお金をかけたらどうか？車の利便は、特に解決にはなっていない。また、家から出られない人には自宅へ聞きにいったり直接届けるなど、障害者のかたなど（元気な人）が働く場所にしたらどうか？障害者の雇用にもなる。

など